

病歴・就労状況等申立書（サンプル）

発達障害の診断がある場合は、生まれた頃のことから記載します。

医療機関：なし

期間：昭和00年0月00日～昭和00年3月

乳幼児健診では、運動機能の指摘（股関節が固いので、特殊な体操を勧められる）はあったが、そのほかの異常はなかった。

幼稚園では、活発で多動であったため、ガキ大将的な立場だった。

医療機関：なし

期間：昭和00年4月～昭和00年3月

小学校では、忘れ物が多く遅刻も多かった。人と接することが苦手で、いじめを受け友達もできなかった。

勉強は、小さなつまずきがあると、その先に進めなかった。特に理科、体育、図工は苦手だった。

医療機関：なし

期間：昭和00年4月～平成00年3月

中学校ではいじめはエスカレートしたが、両親が欠席を許してくれなかったため、我慢しながら登校していた。

高校は、希望の私立高校に進学。2～3年は生徒会に入り活動した。

短大（幼児教育課程を専攻）は、高い専門性を求められ卒業までに単位を取得できず半年間留年した。

医療機関：なし

期間：平成00年4月～平成00年0月頃

短大を卒業後、短期アルバイトを繰り返していた。

子供の頃お世話になった方に、福祉関係の仕事を勧められ就職。

医療機関：なし

期間：平成 00 年 4 月～平成 00 年 0 月頃

平成 00 年頃、福祉関係の非正規職員やボランティア等、いくつかの仕事に従事したが、時間が守れず、報告書等も書くのが困難で提出も遅れがちであった。

医療機関：なし

期間：平成 00 年 0 月～平成 00 年 0 月 0 日

平成 00 年頃、学校の介助員の仕事に就くが、異動も多く環境の変化や人とのコミュニケーションをとるのが苦手であり、苦勞した。

平成 00 年頃、多動の子どもを見ていたが、周囲のサポートもないので緊張感が続き、仕事が終わると疲れ切っていた。

同年 0 月、介助員の仕事は契約打ち切りとなった。この頃から、自分が自分の観察者になるような離人感が出現した。

医療機関：〇〇病院

期間：平成 00 年 0 月 0 日～平成 00 年 0 月 0 日

平成 00 年 0 月 0 日、〇〇病院の精神科を受診し、適応障害と診断される。

医療機関：なし

期間：平成 00 年 0 月 0 日～平成 00 年 0 月 0 日

通院が負担になり、病院には行くことができなかった。

この頃、父の病気が重篤化した。一つのことに集中すると他の事を忘れてしまうので母の手伝いもできなかった。介護や家事で母親も疲れ切ってしまう、家庭内不和が悪化し喧嘩が絶えなかった。抑うつ気分が強くなり、通院を再開することにした。

医療機関：××医療センター

期間：平成 00 年 0 月 0 日～平成 00 年 0 月 0 日

平成 00 年 0 月 0 日、××医療センターを受診。検査の結果、発達障害と診断される。

平成 00 年 0 月 0 日、闘病中の父が他界する。

医療機関：△△医療センター

期間：平成 00 年 0 月 0 日～平成 00 年 0 月 0 日

平成 00 年 0 月 0 日、△△医療センターにて性格検査（ロールシャッハ）を受け、自閉症スペクトラムと診断された。

医療機関：□□クリニック

期間：平成 00 年 0 月 0 日～現在

平成 00 年 0 月 0 日、□□クリニックに転院。

現在は、抑うつ気分・焦燥感・不安感が強く、他人とコミュニケーションがとれない。

家事は母親に頼っており、仕事をしていくことは難しく将来が不安である。

以上